



県立長崎病院

写真に見る

115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□ 8 □

ち梅香崎招魂社が継承し、維新や西南戦争の戦死者を祀る梅香崎招魂社は佐古に移設された。大楠神社は今も梅香崎神社の横に立っている。

毒病院も横に移された。明治31(1898)年に長崎病院の整備はピークとなり、旧大徳寺境内は長崎のメデイカルセンターであった。明治24年、医学部の浦上移転案が浮上し、長崎医学部が第五高等学校医学部として浦上に新築移転することになるが、発祥地の小島校地はしばらく分教場として使用され、手狭になった長崎病院も小島の分教場を借用した。明治27年に長崎病院の改築移転計画が浮上し、明治35年、長崎県立病院として浦上の山里村に移転する。

明治12年、小島養生所時代の病院が手狭となり、隣接する大徳寺庫裏跡一帯の梅香崎招魂社墳墓の地に、オランダ人お雇い医師レウエンの設計で県立長崎病院が建設された。建設資金の多くは県民の寄付で賄われた。

その後、コレラの蔓延や入院・外来患者の増加で増改築が進み、明治19年には梅

この跡地は大正5(1916)年に油屋町の豪商で貴族院議員の橋本辰一郎が取得し、橋本大徳園として公園化して市に寄贈され、その後、民有地となる。

旧大徳寺境内の西はずれ(現・長崎市西小島)から

の1つである大徳寺は、江戸時代、幕府に庇護された

手前のトントン葺きの屋根は民家で、奥の瓦屋根は江戸時代の唐船貿易の倉庫であった旧新地蔵所(現・新地中華街)。真新しい建物は新地に進出した中国人商人の家屋である。

背後の出島は海側が埋め立てられる前で、まだ江戸時代の扇形を残している。海に浮かぶ船舶は蒸気船のようである。

新地越しに出島方面を望む。撮影時期は明治30年代。

く、明治元(1868)年の設計で県立長崎病院が建設された。建設資金の多くは県民の寄付で賄われた。

その後、コレラの蔓延や入院・外来患者の増加で増改築が進み、明治19年には梅

この跡地は大正5(1916)年に油屋町の豪商で貴族院議員の橋本辰一郎が取得し、橋本大徳園として公園化して市に寄贈され、その後、民有地となる。

右の洋館は浦上山里村に移転する前の県立長崎病院の病棟である。

その後、コレラの蔓延や入院・外来患者の増加で増改築が進み、明治19年には梅

この跡地は大正5(1916)年に油屋町の豪商で貴族院議員の橋本辰一郎が取得し、橋本大徳園として公園化して市に寄贈され、その後、民有地となる。

この跡地は大正5(1916)年に油屋町の豪商で貴族院議員の橋本辰一郎が取得し、橋本大徳園として公園化して市に寄贈され、その後、民有地となる。

「寺がないのに大徳寺」と囃された長崎の七不思議

その後、コレラの蔓延や入院・外来患者の増加で増改築が進み、明治19年には梅

この跡地は大正5(1916)年に油屋町の豪商で貴族院議員の橋本辰一郎が取得し、橋本大徳園として公園化して市に寄贈され、その後、民有地となる。

この跡地は大正5(1916)年に油屋町の豪商で貴族院議員の橋本辰一郎が取得し、橋本大徳園として公園化して市に寄贈され、その後、民有地となる。

「忠臣の鑑」と讃えられた

その後、コレラの蔓延や入院・外来患者の増加で増改築が進み、明治19年には梅

この跡地は大正5(1916)年に油屋町の豪商で貴族院議員の橋本辰一郎が取得し、橋本大徳園として公園化して市に寄贈され、その後、民有地となる。

この跡地は大正5(1916)年に油屋町の豪商で貴族院議員の橋本辰一郎が取得し、橋本大徳園として公園化して市に寄贈され、その後、民有地となる。

補正成を祀る大楠神社(の

その後、コレラの蔓延や入院・外来患者の増加で増改築が進み、明治19年には梅

この跡地は大正5(1916)年に油屋町の豪商で貴族院議員の橋本辰一郎が取得し、橋本大徳園として公園化して市に寄贈され、その後、民有地となる。

この跡地は大正5(1916)年に油屋町の豪商で貴族院議員の橋本辰一郎が取得し、橋本大徳園として公園化して市に寄贈され、その後、民有地となる。

所総督・澤宣嘉によつて

その後、コレラの蔓延や入院・外来患者の増加で増改築が進み、明治19年には梅

この跡地は大正5(1916)年に油屋町の豪商で貴族院議員の橋本辰一郎が取得し、橋本大徳園として公園化して市に寄贈され、その後、民有地となる。

この跡地は大正5(1916)年に油屋町の豪商で貴族院議員の橋本辰一郎が取得し、橋本大徳園として公園化して市に寄贈され、その後、民有地となる。

「寺がないのに大徳寺」と囃された長崎の七不思議

その後、コレラの蔓延や入院・外来患者の増加で増改築が進み、明治19年には梅

この跡地は大正5(1916)年に油屋町の豪商で貴族院議員の橋本辰一郎が取得し、橋本大徳園として公園化して市に寄贈され、その後、民有地となる。

この跡地は大正5(1916)年に油屋町の豪商で貴族院議員の橋本辰一郎が取得し、橋本大徳園として公園化して市に寄贈され、その後、民有地となる。

補正成を祀る大楠神社(の

その後、コレラの蔓延や入院・外来患者の増加で増改築が進み、明治19年には梅

この跡地は大正5(1916)年に油屋町の豪商で貴族院議員の橋本辰一郎が取得し、橋本大徳園として公園化して市に寄贈され、その後、民有地となる。

この跡地は大正5(1916)年に油屋町の豪商で貴族院議員の橋本辰一郎が取得し、橋本大徳園として公園化して市に寄贈され、その後、民有地となる。

旧大徳寺境内に整備

(長崎外国語大学長)

随時掲載します